



平成30年5月31日  
延岡河川国道事務所

## タイムライン二次案提示！！ 第7回“みんなで作る”五ヶ瀬川タイムライン検討会 を開催します。

平成28年8月30日に公表しました「想定し得る最大降雨による浸水想定区域」を基にしたタイムライン<sup>※1</sup>の一次案を元に、出水時に発生する内水被害及び土砂災害も含めたタイムライン(二次案)について、平成30年2月26日には机上訓練を実施、訓練後各関係機関にフォローアップヒアリングを実施し検討を進めてきました。今回の検討会ではこれらを踏まえたタイムライン二次案を提示します。

### ○参加機関

今回のタイムライン検討会は、宮崎大学教授をはじめ、県・市などの行政機関に加え、インフラ事業者（ガス・電気・電話等）・交通事業者（バス・電車等）の他、大規模民間企業や住民を代表し区長連絡協議会、災害時における復旧活動に重要な役割を担う建設業協会等にも参加して頂きタイムライン二次案提示、策定に向けて取り組んでいきます。

企業・住民目線の意見も収集し**五ヶ瀬川水系で一体となり“みんなで”五ヶ瀬川タイムラインの作成**に取り組めます。

開催日：6月7日（木）  
時間：13：30～15：30（予定）  
場所：延岡市 消防本部 2F 視聴覚室  
（延岡市野地町5丁目2761番地）

### ※1タイムラインとは

「いつ」、「誰が」、「何をするのか」を、あらかじめ時系列で整理した防災行動計画です。国、地方公共団体、企業、住民等が連携してタイムラインを策定することにより、災害時に連携した対応を行うことができます。

参考資料1：タイムライン一次案 イメージ

### 【問合せ先】

国土交通省九州地方整備局 延岡河川国道事務所  
宮崎県延岡市大貫町1丁目2889（電話(代表):0982-31-1155）  
技術副所長(河川) 川元 壊二(内線204)  
調査第一課長 小野 富生(内線351)

# “みんなでつくる”五ヶ瀬川洪水対応/多機関連携型タイムライン一次案 イメージ

多機関の連携（顔が見える関係）

判断責任者(4機関)で  
L2の判断  
※台風接近時

判断責任者(4機関)で  
L2の判断  
※ダム放流

判断責任者(4機関)で  
L2の判断  
※避難判断水位

時間	気象台	延岡河川国道事務所	延岡市	宮崎県	消防、警察、自衛隊	ライフライン (電気、通信、ガス、上下水道)	交通インフラ (鉄道・バス)	大規模民間企業	自主防災、区長、NPO、社協、病院
-72h	◆台風情報の提供 (北緯25°に到達)	●水文情報の提供 ●台風情報の収集	●水文・気象情報の収集	●水文情報の収集	●台風情報の収集	●台風情報の収集	●台風情報の収集	●台風情報の収集	●台風情報の収集
	TLの発動判断① 各種情報を収集し、L2洪水の判断 (台風接近)				TLメンバーからの意見				
-24h	◆台風説明会の開催	●水文情報の提供 ●台風情報の収集	●台風情報の収集	●台風情報の収集	●台風情報の収集	●事前対策 ●台風情報の収集	●浸水想定区域の確認 ●運行体制の検討 (運休準備)	●浸水防止対策 ●台風情報の収集	●要配慮者の状況確認 ●台風情報の収集
	◆気象情報発表		●ダム放流情報の収集				●台風情報の収集		
	TLの発動判断② 各種情報を収集し、L2洪水の判断 (ダム放流量増加)				TLメンバーからの意見				
-6h	◆気象情報発表	●ホットライン伝達 ●水防警報発令 ●リエゾン派遣	●樋門の操作 ●公共施設閉鎖	●交通規制判断	●水防団待機 ●警備体制の設置	●気象情報の収集	●気象情報の収集		
		●水防警報発令 ●ホットライン伝達	●指定緊急避難場所の開設		●水防団出動	●管理施設の保全	●道路交通規制情報の入手		●要配慮者への情報提供
			●避難準備・高齢者等避難開始の発令		●災害警備本部の設置				●避難の支援
	TLの発動判断③ 各種情報を収集し、L2洪水の判断 (避難判断水位到達後)				TLメンバーからの意見				
-3h		●水防警報発令	●避難勧告の発令 ●職員の安全性確認						●入院患者対応 ●逃げ遅れた住民の救助
		●巡視・パトロール担当退避指示 ●ホットライン伝達	●避難指示(緊急)の発令 ●巡視・パトロール担当退避指示	●巡視・パトロール担当退避指示	●水防活動者退避指示 ●逃げ遅れた住民救助				
0h	はん濫発生	●ホットライン伝達 ●被災情報収集 ●応急復旧	●被災情報収集 ●自衛隊派遣要請 ●応急復旧	●被災情報収集 ●応急復旧 ●道路管理施設の被災対応	●人命救助 ●行方不明者の搜索 ●自衛隊出動 ●道路被災の対応	●応急対策 ●復旧対策の検討 (復旧方針、予定)	●応急対策	●職員の安否確認	●孤立化集落の確認 ●救急患者受け入れ対応
	はん濫発生								
+24h	◆気象情報発表	●被害状況の把握	●応急復旧 ●救援対応			●被災状況の把握 ●復旧作業の開始	●被害状況の把握	●被害状況の把握	●ボランティア対応

はん濫後24hr迄の  
出来る行動の判断

情報共有ツールの活用 (平成29年度対応予定)

各機関の防災行動を把握

○今回の検討成果 ○引き続き検討が必要

※次年度以降の検討会で行動の追加・タイミング等の見直しを随時行っていきます。実際の気象状況により発表される気象情報の内容・時刻は変化します。